

第17期(2022年3月期)
決算説明資料

2022年6月24日



阪神高速道路株式会社

当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 **2,179億円**（前年同期比+215億円）、営業利益 **34億円**（前年同期比+27億円）、経常利益 **36億円**（前年同期比+24億円）、親会社株主に帰属する当期純利益は **26億円**（前年同期比+25億円）となりました。
事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

高速道路事業

- ◆料金収入は1,703億円
（前年同期比6.4%増）（前々年同期比4.4%減）
※依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、その影響を大きく受けた前年同期を上回りました。
- ◆道路資産完成高は320億円（前年同期比42.2%増）
- ◆道路資産賃借料は1,242億円（前年同期比3.5%増）
- ◆管理費用は442億円（前年同期比7.2%増）
- ◆この結果、
営業収益は2,030億円（前年同期比10.8%増）
営業費用は2,005億円（前年同期比9.1%増）
営業利益は24億円（前年同期は営業損失6億円）
となりました。

受託事業

- ◆国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の事業を受託したことにより、
営業収益は94億円（前年同期比24.7%増）
営業費用は94億円（前年同期比26.2%増）
- ◆この結果、営業損失は70百万円
（前年同期は営業利益35百万円）となりました。

その他の事業

- ◆休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、
営業収益は58億円（前年同期比0.4%増）
営業費用は47億円（前年同期比5.7%増）
- ◆この結果、営業利益は10億円
（前年同期比18.0%減）となりました。

高速道路事業

主な増減内容

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2022年3月期	2021年3月期	増減
営業収益	料金収入	1,703	1,601	+101
	道路資産完成高 ^(注)	320	225	+95
	その他売上	6	5	+0
		2,030	1,832	+197
営業費用	道路資産賃借料	1,242	1,200	+41
	道路資産完成原価 ^(注)	320	225	+95
	管理費用	442	412	+29
		2,005	1,838	+166
高速道路事業 営業利益		24	▲ 6	+30

● 営業収益

- ・ 通行台数は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、その影響を大きく受けた前年同期を上回り一日当たり約68.3万台（前年同期比6.8%増）（前々年同期比3.7%減）
- ・ 料金収入は1,703億円（前年同期比101億円増）（前々年同期比77億円減）

- ・ 道路資産完成高は、営業中路線の修繕工事等の完成等により、前年同期比95億円増の320億円

● 営業費用

- ・ 協定に基づく道路資産賃借料は、前年同期比41億円増の1,242億円
- ・ 管理費用は、前年同期比29億円増の442億円

(注) 道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

単位：億円〔単位未満切捨て〕

主な増減内容

区 分		2022年3月期	2021年3月期	増減
受託事業	営業収益	94	75	+18
	営業費用	94	75	+19
	営業利益	▲ 0	0	▲ 1
その他の事業	営業収益	58	57	+0
	営業費用	47	44	+2
	営業利益	10	12	▲ 2
関連事業 営業利益		9	13	▲ 3

●受託事業
 大阪市道高速道路淀川左岸線に係る
 工事出来高の増等により、
 営業収益は
 前年同期比18億円増の94億円、
 営業費用は
 前年同期比19億円増の94億円となり、
 営業損失は70百万円
 （前年同期は営業利益35百万円）

●その他の事業
 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、
 道路マネジメント事業、事業者支援コン
 サルティング事業等を展開したことにより、
 営業収益は
 前年同期比0.2億円増の58億円、
 営業費用は
 前年同期比2億円増の47億円となり、
 営業利益は10億円
 （前年同期比2億円の減）

当期連結財務諸表の概要

単位：億円〔単位未満切捨て〕

連結貸借対照表			
区 分	2022年3月期	2021年3月期	増減
総資産	2,071	2,292	▲ 221
流動資産	1,538	1,755	▲ 217
(うち仕掛道路資産)	603	407	+196
固定資産	532	536	▲ 4
総負債	1,498	1,749	▲ 250
流動負債	328	450	▲ 122
固定負債	1,170	1,299	▲ 128
純資産	572	543	+29
株主資本	589	563	+26
資本金	100	100	-
資本剰余金	105	105	-
利益剰余金	384	357	+26
その他の包括利益累計額	▲ 16	▲ 20	+3

連結損益計算書			
区 分	2022年3月期	2021年3月期	増減
営業収益	2,179	1,963	+215
営業費用	2,144	1,956	+188
営業利益	34	7	+27
営業外収益	1	4	▲ 2
営業外費用	0	0	▲ 0
経常利益	36	11	+24
特別利益	0	0	+0
特別損失	2	2	▲ 0
税金等調整前当期純利益	34	8	+26
法人税等	8	7	+0
親会社株主に帰属する 当期純利益	26	0	+25

2023年3月期 連結業績の見通し

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2023年3月期 見通し	2022年3月期 実績	増減
営業 収益	高速道路事業	3,737	2,030	+1,707
	料金収入	1,779	1,703	+76
	道路資産完成高	1,956	320	+1,636
	その他売上	0	6	▲5
	関連事業	198	152	+46
		3,935	2,179	+1,756
営業 費用	高速道路事業	3,726	2,005	+1,721
	道路資産賃借料	1,315	1,242	+72
	道路資産完成原価	1,956	320	+1,636
	管理費用	455	442	+12
	関連事業	189	142	+47
		3,916	2,144	+1,772
営業 利益	高速道路事業	10	24	▲14
	関連事業	8	9	▲1
		19	34	▲15
	経常利益	14	36	▲21
	税金等調整前当期純利益	14	34	▲20
	法人税等	5	8	▲3
	親会社株主に帰属する当期純利益	9	26	▲16

連結業績の見通し

親会社株主に帰属する当期純利益は、親会社の利益0.3億円に連結子会社の利益等9億円を加えた9億円となる見通しです。

なお、連結業績の見通しのうち、親会社の見通し額は国土交通大臣から認可を受けた令和4年度（2022年度）事業計画に基づいています。

（注）2023年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

2023年3月期 個別業績の見通し

単位:億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2023年3月期 見通し	2022年3月期 実績	増減
営業 収益	高速道路事業	3,736	2,023	+1,712
	料金収入	1,779	1,703	+76
	道路資産完成高	1,956	320	+1,636
	その他売上	-	0	▲0
	関連事業	150	109	+41
		3,887	2,133	+1,753
営業 費用	高速道路事業	3,732	2,014	+1,718
	道路資産賃借料	1,315	1,242	+72
	道路資産完成原価	1,956	320	+1,636
	管理費用	461	451	+9
	関連事業	148	106	+41
		3,880	2,121	+1,759
営業 利益	高速道路事業	3	9	▲5
	関連事業	2	2	▲0
		6	12	▲5
経常利益		1	17	▲16
税引前当期純利益		1	15	▲14
法人税等		1	0	+0
当期純利益		0	15	▲14

個別業績の見通し

営業収益は、3,736億円
 （前年実績比1,712億円増）
 営業利益は、6億円
 （前年実績比5億円減）
 当期純利益は、0.3億円
 （前年実績比14億円減）
 となる見通しです。

なお、見通し額は国土交通大臣から
 認可を受けた令和4年度（2022年度）
 事業計画に基づいています。

（注）2023年3月期の業績見通しには、
 不確定な要因を含んでおり、将来の
 業績等を保証するものではありません。
 実際の業績等については、様々な
 要因により変化するものであること
 をご承知おき下さい。

グループ経営体制

(2022年3月31日時点)



【交通管理】

阪神高速パトロール(株)

阪神高速道路(株)



【関連事業】

(休憩所・駐車場・集客施設運営等)

阪神高速サービス(株)

(事業者支援コンサルティング事業)

阪高プロジェクトサポート(株)



【保全点検・維持修繕】

阪神高速技術(株)

内外構造(株)

(株)情報技術

(株)テクノ阪神

(株)ハイウェイ管制

阪神施設調査(株)

【調査・設計・積算等】

阪神高速技研(株)

(株)阪神eテック

(非連結子会社)

はんしんどぼくぎじゅつしじゆんしゃんはいゆうげんこうし
阪申土木技術諮詢(上海)有限公司

【料金收受】

阪神高速トール大阪(株)

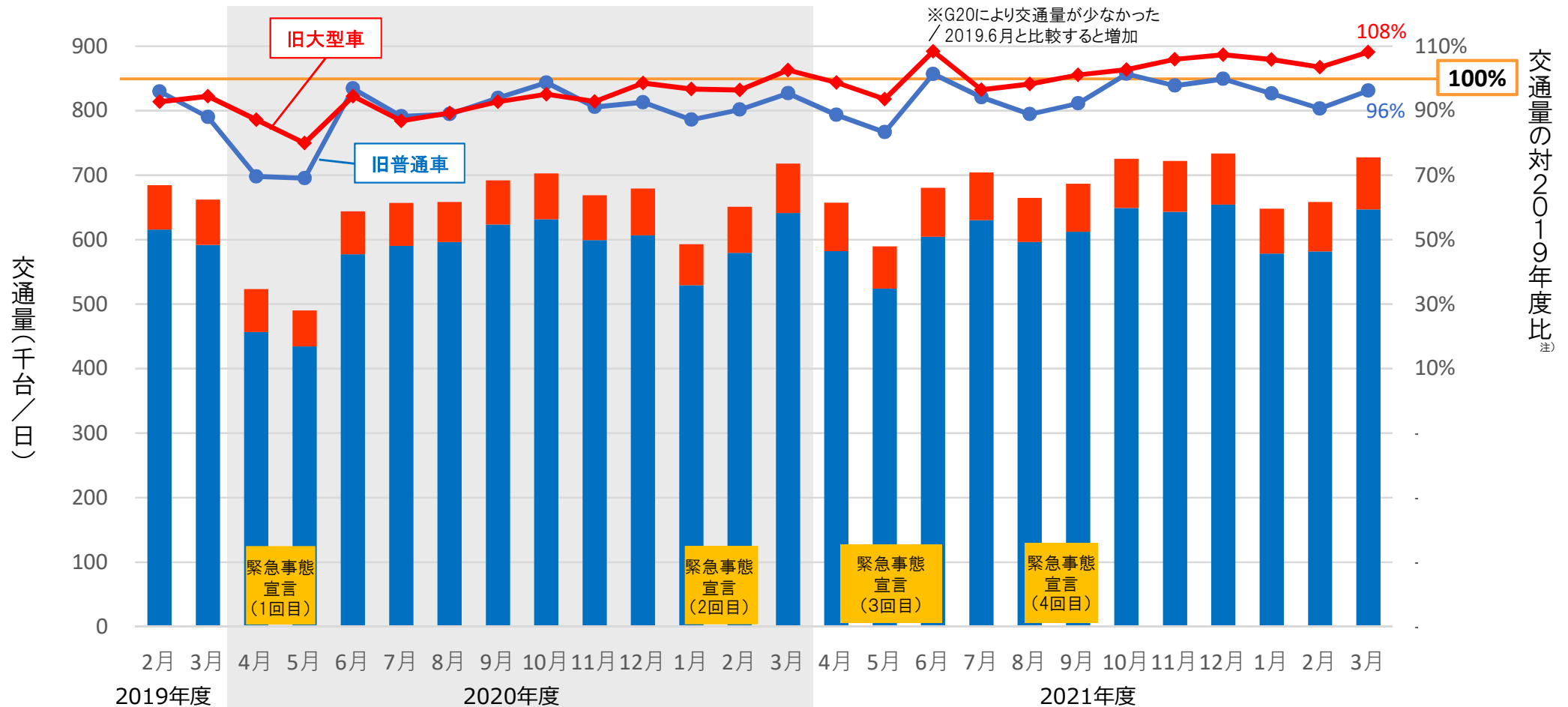
阪神高速トール神戸(株)



新型コロナウイルス感染症影響下における交通量推移

* 2021年度の交通量について、緊急事態宣言が発令された期間を中心に、新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、その影響は2020年度に比べ軽減されました。

交通量の対2019年度比^{注)}



交通量 凡例 ■ 旧普通車: 軽・二輪、普通車、中型車 ■ 旧大型車: 大型車、特大車

注) 2月及び3月については、2019年2月及び2019年3月との比

2021年度の主なトピックス

1. ミッシングリンク解消に向けたネットワーク整備

*ミッシングリンクの解消に向け、淀川左岸線2期、淀川左岸線延伸部及び大阪湾岸道路西伸部(六甲アイランド北～駒栄)の整備推進に努めました。



支障物撤去工の実施状況



障害物撤去工の実施状況



東西交通の分散化

**大阪都市再生
環状道路**



RC橋脚工の実施状況



函体工の実施状況

2021年度の主なトピックス

2. 高速道路リニューアルプロジェクトによる長寿命化の推進

*お客さまに最高の安全と安心を提供するため、構造物の長寿命化に向けた高速道路リニューアルプロジェクト（大規模更新・修繕事業）を推進しました。

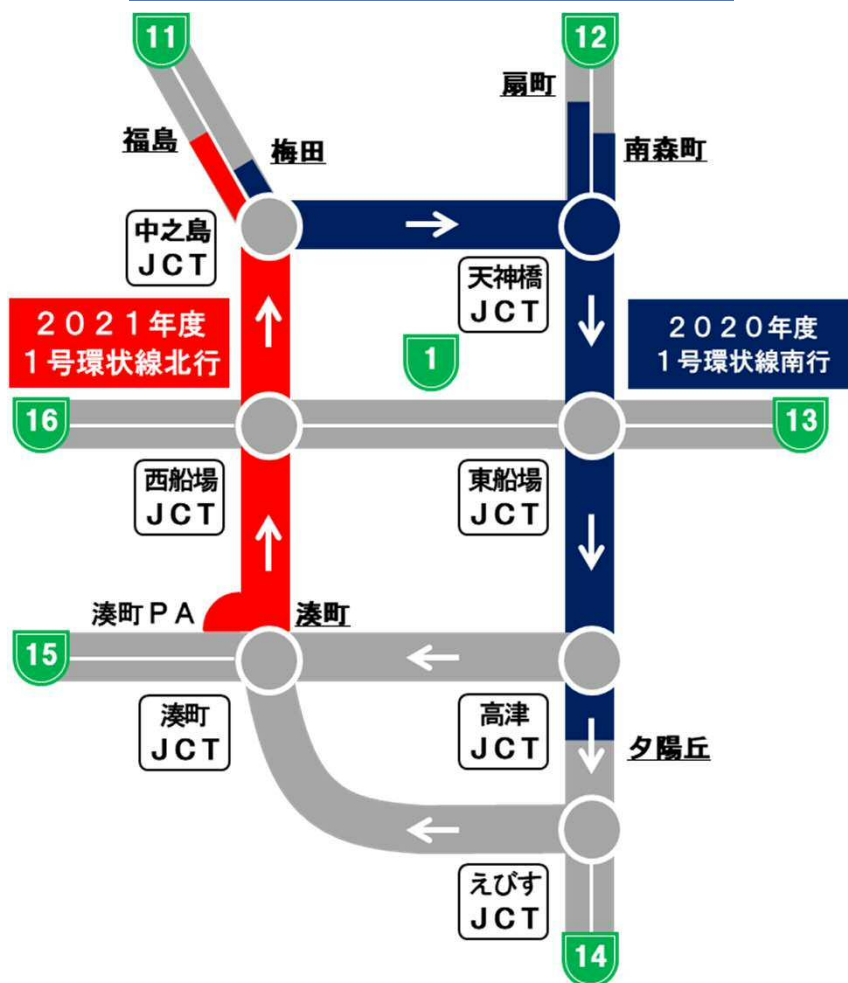
【大規模更新事業】15号堺線湊町付近及び3号神戸線湊川付近において、工事を推進しました。

【大規模修繕事業】16号大阪港線（西行）阿波座付近において、縦目地構造の解消に向けた工事を推進しました。

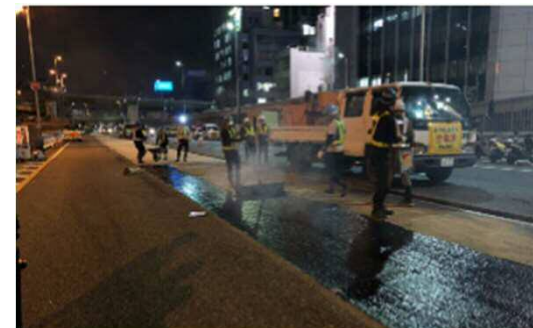
1号環状線（北行）において終日通行止めによるリニューアル工事を実施しました。

〔1号環状線（北行）における工事実施例〕

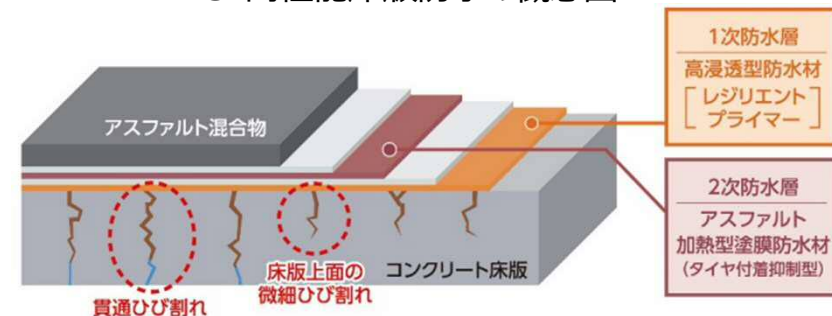
1号環状線リニューアル工事対象区間



○ 高性能床版防水の施工状況



○ 高性能床版防水の概念図



2021年度の主なトピックス

3. お客様満足向上の取り組み

*お客さまにもっと“安全・安心・快適”を実感し、ご満足いただくための様々な施策の取り組みをまとめた『お客さま満足アッププラン』を継続的に実施することで、ますますのお客さま満足の向上に努めました。

もっとわかりやすく！

道路情報板でお知らせする内容を充実
2021年4月4日からの新交通管制システムの運用開始に伴い、情報提供を高度化
渋滞の距離と併せて渋滞通過時間も提供

摩耶 — 魚崎 渋滞 3km

通過 15分

摩耶-魚崎区間で渋滞が3km発生
通過するのに15分かかります

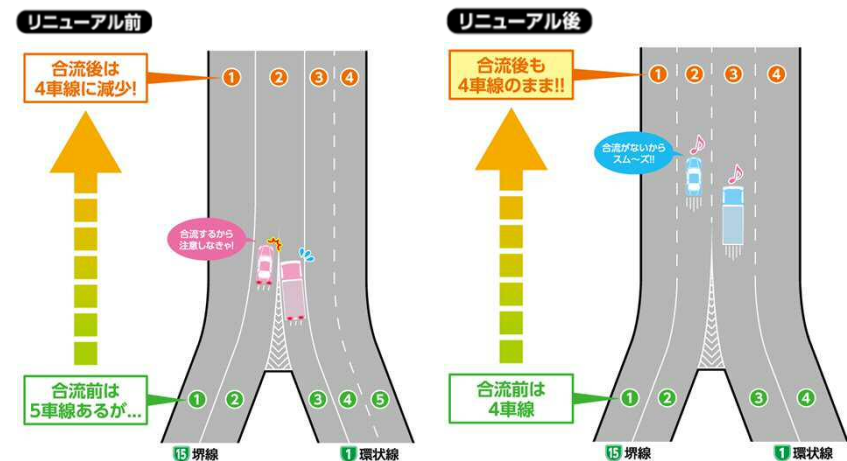
もっと走りやすく！

〈1号環状線(北行)リニューアル工事での実績〉
舗装補修 → 約56,500㎡
伸縮継手補修 → 137レーン
ジョイントレス化 → 16レーン

【舗装・伸縮継手（ジョイント）の補修状況】



合流形状の変更により、合流がスムーズに！（湊町JCT）



2021年度の主なトピックス

4. 関連事業の展開

- * 阪神高速グループにおいてこれまで培ってきた技術・ノウハウを活用し、**周辺の自動車専用道路等の一体的管理、構造物点検、補修業務や海外事業を含む技術・補償コンサルティング事業**を実施しました。
- * 社会のニーズに応えるため、高架下等の道路空間を有効に活用した**駐車場事業**、お客さまサービス向上を目指した**休憩所事業**、保有資産の有効活用をはじめとした**不動産事業**等を展開しました。

〔高速道路の維持管理等の技術・ノウハウを活かした事業展開〕

- 地方公共団体が管理する道路橋等の耐震補強設計業務や点検業務を受注
- 道路や鉄道など公共インフラの用地取得支援業務を地方公共団体等から受託



一般県道芦屋鳴尾浜線
橋梁定期点検

〔周辺の自動車専用道路等の一体的管理受託〕

- 大阪港咲洲トンネル・夢咲トンネル（大阪市）の管理運営を受託

〔海外事業の展開〕

- アジア、アフリカを中心にJICA等からの国際コンサルティング業務を実施
⇒ 2021年度は、新たに2案件を受注

〔道路空間や資産の有効活用〕

- 駐車場事業：高架下等の約300箇所で見極め・時間貸駐車場を展開
⇒ 2021年度は、新たに道路区域内外5箇所で見極め・時間貸駐車場をオープン
- 不動産事業：賃貸住宅事業や事業用定期借地等を展開
⇒ 2021年度は、新たに賃貸住宅1件を取得



阪高ファインパーク信濃橋第1



シャルム千里山東

〔休憩所事業の展開〕

- PAにおいて、レストラン・売店を運営。一部の、無人PAにおいては、自販機コンビニを設置し、お客さまへ軽食の提供を実施

2021年度の主なトピックス

5. DX戦略の策定と推進

- データとデジタル技術の利活用により、生産性の向上や業務の高度化、新たな価値の創造を実現するため、2021年7月に『DX戦略』を策定し、全社横断的にDXを推進しました。
- DX戦略には5つの項目があり、**持続可能な環境と体制** と **データとデジタル技術の真価発揮** の部分を基礎として、**業務の生産性向上** と **業務の高度化** を通して、**先進の道路サービスへ** に向けた取組を行うことで、新たな価値の創造を実現します。



◆本資料には将来の予測や見通しに関する記述が含まれておりますが、こうした記述は将来の業績等を保証するものではありません。将来の業績等は経営環境の変化などにより、目標と異なる可能性があることにご留意下さい。

【お問い合わせ】



阪神高速道路株式会社 経理部経理課

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト

TEL: 06-6203-8888(代)

FAX: 06-6203-8313

URL: <https://www.hanshin-exp.co.jp>